

Sidwaya 新聞記事(2015年4月21日(火))

<見出し>

教育の提供

Nabinkensem に新小学校開設

<リード>

Ouagadougou 東部の Koupèla から 20km ほど離れた Nabinkensem の小学校が日本ブルキナファソ友好協会(JBFA)によって開設された。同校は、同協会が資金を援助して建設された。2015年4月11日に同校において開校式典が行われ、近隣の住民、児童、初等教育関係者と地域当局者が祝辞を述べた。

<写真>



地域当局者が慈善寄付者に対して感謝の意を表した。

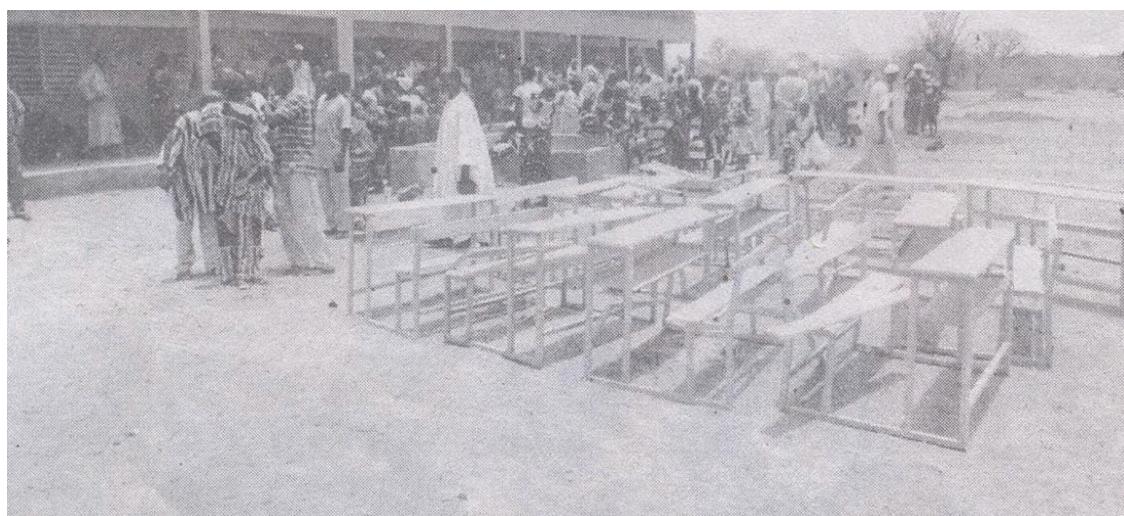
<本文>

日本とブルキナファソの協力関係が、政府・外交チャネルの外で、引き続き成果をあげている。Koupèla から 20km ほど離れた Nabinkensem 村の小学校が日本ブルキナファソ友好協会(JBFA)の支援を得て建設された。Nabinkensem 村は Kourittenga 郡庁所在地であり、JBFA は日本とブルキナファソの友好団体である。校舎の開所式典が昨4月11日に執り行われた。4000万CFAフラン(邦貨約850万円)の建設費は日本で活動する JBFA 協力団体 Sun World Vision によって提供された。2014年6月に校舎建設が開始され、同年10月の新学期には児童たちの教育がすでに始めていた。地域当局者と教育関係者の参列の下に開校式典が執り行われた。Kourittenga 郡庁 Yirwya Ouédraogo 行政長官、Saidou Sawadogo 基礎教育課程州代表、Franceline Naré 前議員らが校舎建設を祝し、同様の自主的な活動が地域のためにさらに展開されることへの期待を表明した。JBFA の Norimasa Matsuyama 代表は、日本から書簡を寄せ、Nabinkensem の人たちと喜びを分か

ち合いたいとのメッセージを伝えた。書簡内容は同団体の Safiatou Sawadogo ブルキナ代表から紹介された。彼は、教育は国の発展のために必要不可欠であり、今回の小学校建設プロジェクトがこの「大きな需要」の一端を担うことになればと。彼は、子供たちの教育訓練にこの新しい校舎が役立つと確信しており、先生と児童に対しては、この校舎を大切にして勉強にはげんで欲しいとも述べた。Matsuyama 氏は、児童の両親に対しても、児童の成績が向上するよう、先生方を応援していただきたいと述べている。1999 年に設立された JBFA は、井戸建設、学用品提供、学校への寄付などを通じて地元の人たちが一番必要としている援助を提供することをその活動の目的としている。

(署名:Gabriel SAMA 編集者)

<写真>



子供たちの学校設備を目の前にして喜びを表す父兄たち。

(中野幸紀 翻訳)